

## 平成23年度第2回東郷湖活性化プロジェクト推進会議 会議録

日 時 平成23年11月8日(火) 午後1時30分～3時10分  
場 所 湯梨浜町役場 2階第1・2会議室

### 1. 開 会 進行：仙賀副町長

それでは、定刻を少し過ぎましたが、平成23年度第2回東郷湖活性化プロジェクト推進会議を開催したいと思います。開会にあたりまして、山田会長の方からごあいさつをお願いいたします。

### 2. 会長あいさつ

今日は、平成23年度の進捗状況をお話しいただいた後、皆さん方から忌憚のないご意見をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。一応、今日は3時半までとしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

### 3. 町長あいさつ

皆さん、こんにちは。本日は、山田会長をはじめ、皆さんたいへんお忙しい中をお集まりいただきまして本当にありがとうございます。先程、会長のごあいさつにもありましたように、今年の上半期の取り組み状況の報告でございますとか、それから、東郷湖・未来創造会議というのを、福井昌平さんをファシリテーター、水先案内人にして立ち上げてやっているところです。この活性化プロジェクトとの関係になるんですが、この活性化プロジェクトは、要するに各界のいわゆる代表的な方々にお集まりいただきておりまして、東郷湖の環境をベースに周辺地域の振興を図ろうということで、色々な計画、取り組み、或いは意見をいただいたりもしているところなんですけれども、先程の話のように実戦部隊として、東郷湖・未来創造会議の方では、要するに職員と比較的団体の方でも若手の方たちで、自分たちでやろうという人たちを集めるような形で、とりあえずこれまで1回目は東郷湖の強みと弱みというところを分析して、強みを伸ばすにはどうしたらいいか、弱みを克服して魅力に変えるためには何が必要かというあたりを議論しているところでございます。福井さん曰く、ワガコト化と言いますか、行政職員がそれを仕事の一環みたいな感じではなくて、自分がこの地域をどうしたいと思って取り組むことが大切だということで、ワークショップ形式で町民の皆さんにもたいへん時間をかけてやっていただいております。そのあたりも中間報告で申し上げると思いますので、また大所高所からご意見をいただけたらありがたいなと思っております。何卒、よろしく願いいたします。

### 4. 協議事項 進行：山田会長

それでは、協議事項に入ります。

平成23年度事業の進捗状況ということで、個別事業の進捗状況について、事務局から順

次説明をお願いいたします。

(中本企画課長)

少しよろしいでしょうか。各課長がこれから説明しますが、課長が説明する前にちょっとお話しさせていただきます。資料ですが、10月末という形で資料を提出しておりますので、少しタイムラグ的な関係がありまして、そのあたりも含めて各課長の方から説明していただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(山田会長)

それではお願いします。

(前田町民課長)

それでは、平成23年度事業進捗状況ということで、町民課でございます。町民課が所管している事業といたしましては、NO.1の水草肥料化調査、それから、NO.2の東郷池を守るアダプトプログラム制度の推進ということでございます。資料の1ページでございます。水草肥料化調査ということで、調査計画におきましては、水草を刈り取って肥料化として利用したいと、それと合わせて環境学習や自然保護への啓発を行いたいということで、本年の9月に刈り取りを実施しようという具合に計画をいたしておりました。ところが、本年の東郷池の状況を見ますと、水草がほとんどなかったということもございまして、当初は刈り取り2tを予定していた訳でございますが、やむなく刈り取りを中止したというところでございます。色々な原因があるかと思いますが、一点は塩分濃度等が原因ではないかということもお聞きしておりますので、また専門的なところから色々なご意見をいただければと考えております。

続きまして、2ページでございます。東郷池を守るアダプトプログラム制度の推進ということで、住民活動により池周辺の環境美化を推進するというところで実施をしているところでございます。本年の目標といたしましては、3団体増の合計25団体ということを目標にいたしておりました。現在までの評価ということで、7月に少年のサッカークラブが1団体増加をいたしております。また、こちらには記載をしておりますが、本年の11月に温泉旅館組合の方から参加をするということで正式に申し込みがございました。目標の参加団体3団体増に対しまして、現時点で2団体の増という状況でございます。以上でございます。

(山田会長)

それでは、続いてお願いします。

(岸田建設水道課長)

建設水道課です。資料としては3ページでございます。取組名としましては、NO.3水質浄化覆砂事業及び効果検証ということで、実施報告につきましては、平成21年度から22年度にかけてまして、覆砂事業は完了しております。これに伴いまして、水質、底質、底生生物、溶出速度、酸素消費速度ということの検証を行うということでございます。効果検証については現在も実施中ということで、中間報告といたしまして、今月報告予定ということで、中旬頃に公表されるということをお聞きしております。また、平成23年度までで検証を終える予定でしたけれども、引き続きまして、平成24年度につきましても継続で検討されている

というところでございます。現在までの評価といたしましては、覆砂により栄養塩の溶出が大幅に抑えられている、それから、水深2mにおいて底生生物、シジミの稚貝等の回復が確認されております。しかしながら、持続性や効果の減少傾向についての把握をさらに検討していきたいということで、さらなる水質浄化対策につなげる必要性があるのではないかと聞いております。以上でございます。

(山田産業振興課長)

続きまして、産業振興課でございます。NO. 4シジミの生息環境改善対策からでございますが、事業としては700㎡の砂をシジミの生息域に覆砂を実施するというところでございます。今現在実施しているところでございます。事業費としては90万円で、東郷湖漁協を中心に実施しているところでございます。

続きまして、NO. 5内水面の環境保全でございます。平成23年度まで3年間、県の補助等をいただいて実施して参りましたが、今年度で終了ということでございますが、来年度以降については、東郷湖漁協の方のご協力をいただいて実施したいと考えております。特に本年は、台風12号、15号の影響もありまして、ゴミの量を1割減らすということを目指してはしておりますけれども、今年はちょっと目標達成はできないのではないかとみております。以上でございます。

(中本企画課長)

続きまして、NO. 6稚魚放流調査の報告でございます。毎年、サケの飼育放流プロジェクトに町として協力参加ということで、発眼卵をいただいて役場で育てて、それを放流するという事業でございます。これについては、まだ発眼卵をいただいておりませんので、実施はしておりません。しかし、今日文書がきておりましたけれども、11月に天神川でサケの観察会というものが実施されますので、それに参加しながら協力をしていきたいと考えているところでございます。それで、今年度の3月に放流を行いたいと思っているところでございます。以上でございます。

(山田会長)

それでは、続いてお願いします。

(山田産業振興課長)

それでは、観光関係でございます。NO. 7池の産物料理メニュー化促進でございますけれども、これは商工会の中にあります地域活性化委員会において色々進めていただいております。現在、レストラン吉華での「シジミビーフン」、「シジミ炊き込みご飯」、さらに、養生館に各催し物で出させていただいております「鯉めし」、「シジミ汁」、そして先般、プレマスペースが新しくシジミを使用した「湯梨浜ちゃんぽん」というのを開発されて、ゆりはま市で出品をしていただきました。現在、そのような状況でございます。

続きまして、NO. 8カニバス事業であります。本年も実施するというところで、12月17日から3月31日ということで決定をいたしました。例年、たいへん盛況ではありますけれども、これにプラスして、松崎地区を中心とした東郷湖周辺を散策してもらうための検討会を10月26日に実施しております。今後、期待をしているところでございます。

続きまして、NO. 9 特産品販売促進活動でございますが、3月末に梨とか、本町でとれる農産物を使ったものの試食会を実施いたしました。さらにそれをにつめて参りまして、現在、梨が丸ごと1個入った「梨まるごとパイ」を製作して、試食等をしているところでございまして、またこれに加えてまだ他に4品目程度、開発を進めているところでございます。今月の22日にこの試食会を実施いたしました。最終的には、来年から販売を軌道に乗せたいと考えているところであります。

続きまして、NO. 10 観光商品造成戦略会議でございますが、来年が古事記編纂1300年に当たるということで、JRと共同いたしました。そのキャンペーンを実施するという事になっております。倭文神社を中心にした題材を企画しているところでございまして、下照姫命が容姿端麗であったということから、「かほり袋（香り袋）」を参拝アイテムとして今現在製作をして、PRしているところであります。本日も大阪からのエージェントがおいでになってございまして、倭文神社プラスJRのキャンペーンに合わせて、ある程度周知ができてきているのではないかと考えており、さらに進めて参りたいと思います。以上でございます。

（山本委員）

それでは、資料の11ページにNO. 11 燕趙園遊覧ということで挙げさせていただいておりますけれども、11月末まで一応開催するという事でやっております。実際には広報不足ということもあるんでしょうけれども、問い合わせ等は若干あるのはありますけれども、運航までには至っていないというのが現実でございます。予約自体が出ることもあるんですけども、波があるとか、そういう悪条件等もありまして運航を中止するというケースも今年度あっておるといのが現実です。実際には10名以上集まっていたきたいということがあるんですけども、小規模での予約が多いということがあって、どうしようかなというところもございまして、そういう問題を色々抱えながらの現在の計画の遂行というのが現状でございます。望湖楼から定期的には団体客の運送自体はあるんですけども、燕趙園遊覧としての実績としては、資料に記載しているようなことで寂しいような結果になっているということが現実でございます。

続きまして、12ページでございます。NO. 12 道の駅燕趙園の活性化ということで取り組んでいる訳ですけども、道の駅燕趙園がオープンする前に、地域の方々にお集まりいただいた検討委員会というものを開催した訳ですけども、そういった色々な分野から多くのご意見をいただくということはいいんですけども、なかなか集約ができないということがあって、今取り組もうとしているのが、現在までの評価のところに記載しておりますけれども、特産品の販売部会、農産物の販売部会、民芸・伝承商品の広報部会、そういう専門的なところで専門的な方に集まっていただいて話をした方が進行は早いのではないかとということで、今取り組んでいるところです。実際に9月29日なんですけれども、地域の3つの商店の方に集まっていただいて、色々ご意見をお聞きしております。そういうことをやっていながら、今後活性化を図っていきたいというところでございます。その中で意見があったのは、無料で開放している訳ですけども、グラウンド・ゴルフで多くの方が集まってい

るのに活用がないんじゃないかというようなご意見もありまして、今アンケート調査をしているところでございます。それから、実際に登録農家というのは62戸現在ある訳ですけども、小規模な農家が多い、大規模農家が少ないということがあるんでしょうけれども、なかなか品数が揃っていないというような現実がございます。それから先日、NHKの番組に道の駅燕趙園が紹介されまして、やっぱりテレビの反響というのは大きいというのを感じましたけれども、紹介した商品の電話注文というものが結構入っているという状況でございます。以上でございます。

(山田産業振興課長)

それでは、13ページをご覧いただきたいと思います。NO.13のホワイトライアスロニ in 湯梨浜大会でございますが、平成23年度は6月19日に実施いたしまして、盛会に終わりました。来年度についても実施するという事で、トライアスロン協会との調整が整いまして、平成24年6月16日、17日に開催する予定であります。宿泊については、今年度は100人前後の宿泊数がありましたけれども、もう少し宿泊数を増やしていこうということで取り組んで参りたいと考えております。以上でございます。

(中本企画課長)

引き続きまして、NO.14湯梨浜夏まつりでございます。今年度から湯梨浜夏まつりを2つという形をとりました。水郷祭ととまり夏まつり、もう一つが実行委員会を立ち上げた訳ですけども、湯梨浜綱引き大会という形で、今年度7月23日が綱引き大会、7月24日水郷祭、7月31日とまり夏まつりという形で開催させていただきました。水郷祭は、日にちを7月24日という形でずらした訳ですけども、ずらしてもやはり水郷祭ということで雨が降ったというような状況でございました。そういうこともありまして、少し今年度は来られる方が少なかったかなという感じがしているところでございます。それで、事業の目標として掲げましたのは、湯梨浜夏まつりの認知度を向上させるために、湯梨浜夏まつりホームページのアクセス数を1,000以上という形の指標を出した訳ですけども、結果的には2,691カウントということで、この数値目標につきましては、100%の達成が図れたかなと思っているところでございます。それから、最終評価としましては、ホームページの更新、各観光雑誌への情報提供、新規協賛企業の獲得に努め、積極的にPRを行ってきたというところでございます。

続きまして、NO.15中華コスプレ・プロジェクトでございます。今年度も2回の中華コスプレ大会があります。5月28日、29日に開催されました中華コスプレ日本大会ということでございますが、15都府県で58組、112名の参加があったということでございます。それから、11月12日、13日に中華コスプレアジア大会が燕趙園の方で開催されるという計画でございます。これにつきましても、皆様の方に参加をお願いしたいということでございます。事業の目標というところでございますが、参加者の増加を図り、本町及びイベントの魅力を発信するという事で、参加者数を前年度以上とするということで、日本大会は80名、アジア大会は140名が昨年度の実績でございました。今回は80名に対して112名の実績ということで、増加傾向にあるんじゃないかと思えます。目標に対する達成

度といたしましては、アジア大会がありますけれども、80%程度あるのではないかと考えております。

続きまして、NO. 16 東郷湖ドラゴンカヌー大会でございます。今年度、第11回東郷湖ドラゴンカヌー大会という形で実施しております。平成23年8月21日に開催という形でございます。今年度の参加チームでございますが、80チームで800人の参加があったということでございます。実施の方針の欄でございますが、各種の部門設定により、幅広い参加者を募り湯梨浜町をPRする、今大会から会場をハワイ夢広場へ変更、屋台等を充実しながら参加者の満足度の向上を図ることが実施の方針でございます。事業の目標でございますが、参加チームの増加を図り、幅広く東郷池の魅力を発信するというところで、前年度が102チームに対して今年度80チームだったということで、チーム数からいきますと約20チームの減でございました。その要因といたしましては、最終評価のところに記載している訳ですけれども、これは事務局の方から聞いておりましたが、競技運営及び参加者の安全性を確保するため会場を変更、そのため、十分な宣伝、勧誘ができなかったということがまず一点あったんじゃないかということ。もう一つが、火気を使用する飲食が、あやめ池の方であればバーベキュー等ができた訳ですけれども、それができないということへの問い合わせが結構あったということで、参加者の満足度の向上につながらなかったため、少し参加人数が減ったんじゃないかというようなことも評価の一つとして挙げておられるところでございます。以上でございます。

(山田産業振興課長)

続きまして、17ページでございます。NO. 17 水源域森林育成作業でございますけれども、これにつきましては、間伐事業を中心として当初計画通り現在進行中であります。それにプラスいたしまして、荒廃竹林を対象としたクヌギの造林も進めておまして、園地区内で1.5haを実施中であります。竹林整備につきましては、県の事業配分等が大幅に縮小されたことによりまして、現在0.5haを計画中でございます。

続きまして、NO. 18 エコファーマーの推進でございますが、本年は実施しておりません。現在、湯梨浜町全体で1,107名の農家の方がエコファーマーとして承認されている訳ですけれども、今年度は進捗がございません。以上でございます。

(岸田建設水道課長)

続きまして、19ページでございます。NO. 19 観光ルート整備ということで、町道今滝線の改良ですけれども、今年度まで中止ということになります。以上でございます。

(蔵本生涯学習・人権推進課長)

続きまして、20ページでございます。NO. 20 東郷荘絵図活用導入事業ということで、実施計画は、文化財解説ボランティアの育成と文化財啓発講演会でございます。実施スケジュール、資料の中ほどにございますが、6月14日「文化財見学会 佐美を訪ねる」となっておりますが、正しくは6月15日でございます。それから、7月6日「文化財見学会 7月9日淀江を訪ねる」となっておりますが、7月9日というのは誤りまして、7月6日が正しい日にちでございます。進捗状況・実績のところでございますけれども、只今の2件の見

学会の他に、今後の取り組みといたしましては、11月14日、来週でございますが、「川上地域を訪ねる」を実施予定としております。それから、2月に東京大学による歴史講演会実施予定としておりますが、先程、東京大学から連絡がありまして、3月11日に実施をするように決まったということでございます。それから、現在までの評価のところ、見学会等は実施できているものの、ボランティアの養成につながっているとは言い難いという具合に記載しております。現在、実際に町外からの団体での見学者の対応ですとか、或いは小中学校の社会科の時間等の対応をお願いさせていただいている方が、東郷地域に1名、羽合地域に1名いらっしゃいます。実際にこういった方々が活動しておられるところに参加するというようなことも、今後は計画をして参りたいと思っております。以上でございます。

(中本企画課長)

続きまして、21ページでございます。NO. 21ゆりはま塾でございます。今年度から第1期生の塾が終わりまして、第2期生の塾生を募集するということから始めました。現在の評価という形で、塾生は現在9名で、現在も呼びかけを行っているとしておりますが、9名で決定しているところでございます。それで、11月2日に第1回の開講式を開催したところでございます。今後、今年度中に講座を3回程度開いていこうということで、今、計画をしているところでございます。目的としましては、以前からしておりますけれども、町の歴史、伝統、自然等に関する講座で知識、技術等を習得し、次世代への継承を図るということでございますし、最終的には観光ボランティア等にもなっていなければならないという思いで開いているところでございます。目標に対する達成度といたしましては、まだ第1回の開講式をした時点でございますので、30%という形で捉えているところでございます。以上でございます。

(岸田建設水道課長)

続きまして、22ページでございます。NO. 22藤津公園の地盤沈下対策ということで、平成23年度中に地盤沈下対策の工事を完了するというところで、現在、工事が発注されて進行中でございます。目標に対する達成度としては、50%程度という具合に考えております。以上でございます。

(中本企画課長)

続きまして、23ページでございます。NO. 23東郷湖活性化プロジェクト推進会議、当会議でございます。年3回の会議の計画をしております。第1回を6月7日に開催し、今日が第2回目の推進会議ということで、開催させていただいているところでございます。事業の目的につきましては、先程から出ておりますので割愛させていただきます。進捗状況をホームページ等で公開するというところで、目標に対する達成度でございますが、現在のところ30%とさせていただいております。また、町長の方から説明がありましたが、東郷湖・未来創造会議というものを立ち上げております。後程、その他のところで説明させていただきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。以上でございます。

(山田会長)

それでは、どの分野でも結構ですので、ご質問やご意見がございましたらお願いいたします

す。或いは確認したいということがあればお願いします。

(宮本委員)

NO. 17 (水源域森林育成作業)、竹林整備事業の推進についてなんですけれども、こちらのセンコースクールファームの取り組みの一環で、タケノコの水煮を学校給食に提供して、地産地消率を高めようという取り組みを総合事務所として応援しておりまして、タケノコ塾みたいなのも先般開催したところなんです。来年度に向けて、そういった集荷体制もつくっていく予定にしているんですけれども、このNO. 17の竹林整備事業との関わりというのはあるんでしょうか。そこのところをお聞かせいただけたらと思っております。

(山田産業振興課長)

今、センコースクールファームの支援ということがありましたけれども、本町で1企業を支援するというだけではなしに、町全体で生産されるタケノコを町内で組織立てて集荷し、その行き先がセンコースクールファームであるのか、また他の企業であるのかは分かりませんが、そういう組織立てを今、周知しているところでありまして、生産量等は全く不明ではありますけれども、取り組みとしては現在進めております。先般、11月号の町報にも、その取り組みについて広報しているところでもありますし、関係のところについても周知をしているところでありまして、できれば年明けには組織立てて、何とか軌道に乗せたいなどと考えているところです。

(宮本委員)

この田畑とか、引地地内というのが具体的な取り組みなんでしょうか。

(山田産業振興課長)

いえ、これは竹林整備事業でございまして、タケノコの話ということではないです。

(宮本委員)

全く竹林整備だけに着目したことということでしょうか。

(山田産業振興課長)

そうです。

(山田会長)

他にいかがでしょうか。また後でありましたらおっしゃっていただくということで、次の数値目標の達成状況のところのご説明をお願いいたします。

(前田町民課長)

数値目標の達成状況というところで、環境でございます。「東郷池の水質(COD)4.5mg/l」というのを目標として設定をしております。現在の達成状況でございますが、平成23年度暫定値でございます。4月から9月までの速報値ということで、COD5.6mg/lという状況でございます。以上でございます。

(山田会長)

次に、観光分野についてお願いします。

(山田産業振興課長)

観光客の宿泊数でございますが、目標「年間20万人」ということでございますけれども、

平成23年8月末現在で、10万人に達していないという状況でございますが、今、エージェント等に色々来ていただいたり、訪問したりして宣伝、PRの方をしているところでございまして、平成22年度以上には達成できるのではないかと考えておりますが、20万人にはまだ遠い状況であります。

(山田会長)

ひと通りご説明を産業、資源としていただけますか。

(山田産業振興課長)

「シジミの漁獲量年間200トン」ということで目標を掲げておりますが、平成23年10月末現在で、24トンという状況であります。今後につきましては、どうでしょうね、組合長さん。

(足立委員)

今でも結構、11月3日から禁漁区になっていたところを解禁したところなんですけど、10kg 獲るのに前だったら30分ぐらいで獲れていたのが、今は1時間以上かかる状況です。大分死んでしまったものがあるもので、はっきりしたことは言えませんが、ちょっと減ると思います。

(中本企画課長)

事務局からですけど、今回、平成23年度10月末現在で24トンという数値を出させていただいておりますけれども、まだ確定していないということで、もう半月程すればもう少し正確な数値が出るということを聞いておりますので、実質は増えてくると思っているところでございます。今、組合長が言われたように、平成22年度の実績に到達するかどうかというのは難しいという状況にあるということでございます。

引き続きまして、資源の方でございます。「各事業の目標値を90%以上にする」ということを挙げております。以前はゆりはま塾の実績を挙げさせていただいておりましたが、今回、各課長が説明しましたように、目標に対する達成度という形でそれぞれ挙げております。それらにつきまして90%以上達成しているものはまだ一部しかございませんので、これからの取り組みを推進していかなくてはと考えているところでございます。以上でございます。

(山田会長)

どなたからでも結構ですけども。

11月のこの時期なので、数値が年度いっぱいとは違うのは当然なんですけれども、観光、産業の時は去年の同時期とどうだという同時期の数値を出していただかないと検討のしようがないんですね。それから、去年とどうだったという分野、そういうものがあっていいのかなと思いますけどね。この時期に出すとすれば。

(中本企画課長)

分かりました。経過的な進捗状況という時には、同時期の状況を出した方がいいということですね。

(山田会長)

少なくとも去年の同時期ぐらいは出した方がいいんじゃないでしょうかね。

他に何か、皆さん方からお気づきの点があれば、何なりとお願いします。

(中前委員)

CODがなかなか落ちてこないということ、シジミが今、なかなか獲れないということ、それから、水草が今年ないですね。多分、塩分じゃないかと話をしているんですけど、確かに魚の方を見てもやたらとスズキやセイゴが増えていて、淡水魚が減ったような気がしますし、小魚も少ないように思うので、やっぱり塩分の調整が大きな力を持っているのではないかと思うんです。漁協のシジミのこととか、水門の動かし方とかによって塩分が変わってくると思うんですけど、今、塩分が高すぎて色々な障害が出ているのではないかと思うんですけどどうなんですかね。

(山田会長)

これは、どなたがお答えいただけるんでしょうか。

(足立委員)

東郷池の場合、産卵を促すために多めに塩分を入れるんですけど、その後はほとんど閉めた状態で、よっぽど水が増えない限りはあんまり開けないようにしているんですけどね。魚道から、海の方が高いもので、魚道から結構塩が入ってきて、なかなか塩分が抜けないというか、そういう状態になっていますので、先程言われたように、セイゴとか、スズキとか、海の魚がものすごく入ってきて、難しい問題で何とか塩分を減らそうかなとは思っているんですけど、やっぱり魚道を通して入ってくるものはどうしようもないので、自然相手なもので。今はそういうような状態です。

(山田会長)

この前の台風は関係ないんですか。あの時に湖面が上がって、途中でスッと引いていった感じがするんですけど。

(足立委員)

池の底が結構汚れているもんでね。底を探ってみたんですけど、ヨシの枯れたものとか、いっぱい沈んでいて、あんまりいい状態ではないですね。

(山田産業振興課長)

水門の管理は産業振興課が担当しているんですけども、時間的な管理ということで、定時に開けたり、閉めたりしています。海水が高いから開けるということもありませんし、よって、海水が流れ込んできて塩分が高くなるということはないと考えています。ただ、組合長が言われたように、魚道がいつもオープンですから、思った以上の海水が入る可能性はあるかもしれません。

(山田会長)

他にいかがでしょうか。

(古田委員)

今の関連ですけど、組合長のところに水質計があって、常時皆で漁協は監視しておられるんですけど、その基になるのが水門管理の中部県土のマニュアルがあって、それに基づいて町がやっておられて、さらに、水門操作員の方がやっておられるんですけど、だいたい漁協

の方の今のマニュアルでは、7月までは海の水の6分の1以下に抑える、実際には10分の1以下になっていますけど、それを7月以降は6分の1から4分の1に上げて、また9月以降は2カ月間だけの操作で4分の1までということ去年からきています。特に、9月に台風が2回続けてきましたので、逆に塩分濃度は落ちる方ですね。湖山池は塩分濃度がどんどん落ちてしまって、なかなか上がらないという状況が続いています。そういう形で、マニュアルに従ってやっておられるんじゃないかなと思います。

(山田会長)

他にいかがでしょうか。

(中前委員)

今のことでですけど、それぞれで一生懸命動いておられると思うんで、やっぱりせっかくこういう会議があるので、データを出し合ったりして、とにかく水草が減っているのは確実なんですよ。潜って見ていると水草の周りに小さい魚が減っているんですよ。ということは、これから魚がどんどん減っていくことにもなりかねないんで、だいたい水草が必要なんですよね。そういうことから、それぞれの立場で何ができるかということを考えて、水門管理だけではいけないかなと思いますし、CODと水草の関係を調べたり、これからしていかなくてはいけないだろうなと思うんですけどね。

(宮脇町長)

塩分濃度の定期的な測定というのは、衛生環境研究所がしてくれているんですか。

(長谷岡委員)

私はちょっと記憶にないんですけども。

(古田委員)

漁協にモニターがあって、記録ができるようになっていますので、データはあります。

(山田会長)

今、問題提起があったことをそれぞれの立場で付け合せてほしいと思いますね。

他のことでも結構ですので、いかがでしょうか。

(宮脇町長)

先程の水草の傾向は少し私も気になっていまして、せっかくたくさん増えてきて、いい傾向だなと思っていたところがまた減ったということで、会長が先程おっしゃったように、またデータとかを集めて、対応、検討することも必要かなと思いました。

その他のことで、例えばアダプトプログラムにしても、目標3団体で今が2団体ということで、PRのやり方としては町報で呼びかけたりということなんですけども、もう少しパブリシティを利用して、例えば実際にその団体が活動しているところをケーブルテレビで流したりしてというような格好で、或いはフォーラムを開催して住民の皆さんにより周知したりというようなことをやっていかないとなかなか増えないんじゃないかという気がします。そもそも3団体という目標が本当は低い気がしますし、そういう意味からも、もっとPRの仕方、もっと生きた情報を流せるようにすれば、このアダプトプログラムは要するに、ここは誰々がやっていますということを示して、その活動を支援することが行政の役割だとした

ら、そうするとやっぱり活動しておられるところは紹介するということをきちんとやっていると、活動しているサイドの方からは本来期待していたものと違うなどということも出てくるので、そのあたり心してもらえたらということの一つ感じました。

それから、11月13日にノルディックウォークがあるんですが、これはNPO未来の方が、山田会長も関わっておられますが、ここをノルディックウォークのメッカにしたいという強い思いを持って、町の企画課の補助金を出しながら実施しておられる訳なんですけれども、この活性化プロジェクトの項目の中に挙げてみるのもいいのかなということを感じたところでございます。

それともう一つは、先程の住民に広く知ってもらおうという観点からの研修会というか、パネルディスカッションみたいなもの予定について話してもらっておくといいのかなと思っております。

(中本企画課長)

本年度、東郷湖活性化のシンポジウムを計画しておりますが、まだ日程を詰めておりません。当初計画でいきますと2月頃というような計画はしている訳なんですけれども、まだ内容を詰めていませんので、テーマ等も考えながらそれに向けて実施していきたいと考えています。東郷湖・未来創造会議という形で立ち上げましたので、それらを含めながら実施しようかという思いは持っていますけど、シンポジウムは開きたいと考えております。

(山田会長)

他にはいかがですか。

(宮本委員)

先程町長が言われたんですけれども、ウォーキングの件ですね。この項目に入れたらどうかというお話があったんですけれども、県としても是非この東郷湖活性化プロジェクトの重要な項目として挙げているという形をとっていただけたらありがたいと思います。内外ともと言っているのかどうか分かりませんが、非常にこの東郷湖の景観なり、それから、周辺が12kmという非常に歩きやすい距離感、そういうこともあって、非常にウォーキングコースとして素晴らしいものがあると、そういう地域資源がありますので、県としてもウォーキングなり、ノルディックウォークなり、政策、戦略事業として取り上げて、今、予算時期でございますので、是非やっていきたいなと思っております。ですが、県の空回りになってはいけませんので、県は予算要求しているけど地元の盛り上がりがないんじゃないかみたいな、活性化プロジェクトの項目にも載っていないんじゃないかみたいな話になってもいけないので、町長が是非ともというお話がありましたので、そうしていただけるとありがたいなと思っております。

(中本企画課長)

極力挙げていこうと思っております。と言いますのも、東郷湖・未来創造会議というのがまだ最終結論を出しておりません。途中経過からいきますと、道の整備とウォーキングを合体させたような内容になっているものがあります。結果的には、そういうものが事業化という形になるのではないかと、これは私の思いですけれども、なると思います。それを受けて、

活性化プロジェクトの方に反映していこうかという気持ちがあったものですから、まだ具体的に挙げていなかったところがございます。その他に東郷湖・未来創造会議の方から出てきたものについても、東郷湖活性化プロジェクトの中にも入れていかななくてはいけないという思いもありますので、最終的には挙げていこうと思っているところです。

(宮本委員)

県の予算要求がだいたいもう今始まっています、11月ぐらいには最終の詰めの段階に入ってしまうんですね。早い段階に決めていただくと県としても説得力のある資料が出せるかなと思っているんですが。

(仙賀副町長：事務局長)

ここで皆さんがよろしければ挙げていきたいと思えますけれども。

(山田会長)

反対する理由はないですね。

(仙賀副町長：事務局長)

それでは、今回から載せていくということにさせていただきます。

(山田会長)

私は県のウォーキング協会の会長をやっているんですけど、国際的なウォーカーがいつも来られて、間違いなくこの東郷湖周辺は抜群のコースだと推奨されます。これを売っていかない手はないと思えますね。

(長谷岡委員)

衛生環境研究所ですけれども、先程シンポジウムの話が出たので、実は昨年度のシンポジウムの時に、当方の研究の成果を色々出させていただいて、非常にいいシンポジウムというか、そういう会ができたと思っております。今年は、研究所の方と町の皆さんの方に協力いただきまして、東郷池を見て、触って、感じてということで、五感によって住民の皆さんがどんなイメージを抱いているのかという、1,000人ぐらいの人からのアンケートを集めようということで取り組んでおりまして、今日は資料としては持ってきておりませんが、10月末を締め切りにしているんですけども、今のところ1,300人弱の方からの回答がっております。それで、大枠で見ると地元の方よりもむしろ地元でない町外の方が東郷池っていいねという感じを持っておられるというようなデータが出てきています。ですから、そのあたりで地元の方と地元以外の方とのギャップとかがあって、やはり東郷池を活用していくためには地元の方たちが良さというのを本当に認識していただいて、先程のウォーキングのこともあると思えますけど、そういうような結果のまとめを是非シンポジウムの中ででも話させていただければなと思っておりますので、そういう機会を是非与えてやっていただければと思います。

(山田会長)

シンポジウムの中身が徐々にできてきましたね。

他にいかがでしょうか。では、また折に触れてご意見をいただければいいので、その他のところを説明していただきたいと思えます。東郷湖・未来創造会議というところの説明をお

願いいたします。

(中本企画課長)

資料をご覧いただきたいと思います。前回の東郷湖活性化プロジェクトの中で、こういう会議を開きますということは説明させていただいたところですので若干説明を省かせていただきますが、目的といたしましては、東郷湖周辺を中心とした地域資源を活用しながら総合的なまちづくりを推進すると、それで、町民が主体となるまちづくりを創造する団体、人材の育成を図るということでこの会議を開いております。それで、この会議にはチームをつくりました。社会資本整備チームと観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム、イベント・コンテンツ開発チームということで、3つのチームに分けました。このように3つのチームに分けて、どういう形をとったのかということですが、ワークショップ形式で実施をしたところでございます。SWOT分析という形なんですけれども、強み、弱み、強みをさらに強くする方策はどのようなものがあるのか、弱みを克服するためにはどのような方策があるのかということを議論していった訳でございます。現在までに全大会を2回行っておまして、チーム会議は全大会の中でも開いておりますので、全体のチーム会議としては4回程度実施したところでございます。それでは、「東郷湖SWOT分析」結果という資料を見ていただきたいと思いますが、概ねこのような形が出てきた内容ではないかということで、事務局の方がつくったものでございます。東郷湖の強みを分析という形で、東郷湖の強みは何だろうということで、ポストイットという紙に皆さんがそれぞれの意見を書いて、こういうものがあるんじゃないかということをもとめたものがこのような東郷湖の強みなんだということでございます。温泉資源とか、景観が良いとかというようなことがありますし、1周が12km歩ける広さがあるんじゃないかというようなこと、シジミや魚などの水産資源があるというのが東郷湖の強みではないかということでございます。それと、東郷湖の弱みという形で皆さんから意見をいただいたものが、水が汚いとか、イメージが暗い、元気がない、アクセスが悪いなどが出されたところでございます。今度はそれらを克服するためにはどのようなものがあるんだろうかということで、皆さんから意見を出し合っていたものでございます。弱みを克服する対策として、イメージアップ、アクセスマップ、特産品開発、販路拡大、郷土料理という形で、弱みについて克服していくことができるんじゃないかというような意見でございます。強みをさらに発展させる対策ということで、温泉地としてのイメージづくり、湖上温泉、ブランド化、国・県を巻き込む、情報発信の充実、物語の発信、景観スポットの整備という形で意見が出たところでございます。これだけでは何かわからないということで、それぞれのチームの検討結果という形のをそれぞれのチームごとでどんなことが出てきたんだろうということを整理させていただきました。東郷湖・未来創造会議 社会資本整備チームという形で出てきたものでございます。これらは、すべてそれぞれ出てきた意見をまとめながら、事務局が記載したものでございます。社会資本整備チームでいきますと、自転車道と歩行者道の周回コースの建設が必要ではないかということでございます。これは、イベント等にもつながる訳ですが、ウォーキングやサイクリングを楽しませるためには、東郷湖周辺の道の整備が必要ではないかということでございます。

現在、藤津から宮内の入り口までの歩道がないんじゃないかというようなことで、これらの整備が必要んじゃないかということがございます。後、道路整備ということで、自転車と歩行者で色分けをすとか、色々な手法が出てきたところがございます。これらの内容は一つひとつ説明しませんが、後の方でもう一つまとめております。これらが社会資本整備チームで出てきた内容でございます。次に観光・物産の活性化、顧客満足度開発チームの検討結果という形で、同じように皆さんから意見を出していただいた、それはあくまでも言葉ではなくて紙に書いたものを貼りながら、自分の考えを言っていたという形をとっています。それで、温泉資源の戦略的活用、これはテーマごとに分けたものでございます。特色ある旅館づくりの関係という形で、充実をさせるという形で、客のニーズに基づいた食事の選択制度とか、サービスの選択制度というようなものが出ておりますし、イメージ創造関係という形で内容が出ております。縁結び、パワースポットをキーワードに設定したらどうかというような内容が出ています。それから、健康的な温泉のイメージづくりということでは、ウォーキングのまちづくり、宿泊者に体育施設を優先提供ということが出ております。ヘルシーなイメージづくりということで、肌がツルツルになる、美容にいいということをキーワードに設定してはどうかというようなことがございますし、現在も進めております足湯の関係も出ております。風情のある足湯の設置もやっていくべきではないかというような意見が出ております。後は、商品の開発等も出ております。販路開拓関係も出ております。内容はたくさん出ていますので、これにつきましては説明を省かせていただきます。続きまして、イベント・コンテンツチーム検討結果という形で出ておりますのが、既存イベントの充実を図る必要があるんじゃないかということで、参加体験価値の高いイベントの創造という形で、イベントと地元町民との交流をセットすることが必要ではないか、イベントを産業振興につながる時期に開催すべきではないかというような形での意見が出ています。それと、既存のイベントという形でトライアスロンの関係でございます。子ども、親子を対象としたトライアスロン競技の創設として、幅広く親しみやすいトライアスロンを創設していったらどうかという意見も出ております。カヌー、ボートの関係でいきますと、今、ドラゴンカヌー大会をやっていますし、カヌー協会の方もあやめ池の方でやっておられますので、それらを活かしながら、カヌー体験、宿泊・学習ツアーの創設をしたらどうだろうかという意見も出ています。新しいところでは、マラソン関係ということで、東郷湖マラソン大会という意見も出ております。それから、先程から話題になっておりますけれども、ウォーキング、サイクリング関係でございますが、気軽に参加できるスタート地点の複数設定とか、休憩できる場所、スタート・ゴール地点の設定、ウォーキング（観光）プラス温泉入浴、レンタサイクルショップの設置という形で意見が出ておりました。

最終的に、これらのような意見が出ていますので、東郷湖・未来創造会議 ワーキングチーム提案事業一覧という資料を付けさせていただきました。今まで出た意見をもう少しコンパクトにさせていただきました。出た意見の中で関連あるものを集めたものでございます。手法・内容の方が意見等が出てきたものでございました。それで、NO. 1からの社会資本整

備チームからいきますと、周回道路整備事業という形で整備をしていくということでまとめました。この手法といたしましては、例えばカラー舗装、色分け、適した素材の活用、段差解消、歩道の設置、栈橋をつくってはどうかということがございます。道路改修事業という形で、強みをさらに発展させていく対策として道路改修が必要ではないかということで、浸水箇所の嵩上げということが出ております。これにつきましては、松崎地区が出てきておりましたので、浸水箇所の嵩上げという形のもが出ております。現在、県の工事で道路の嵩上げがある程度済んだ訳ですけれども、やはりこの間の台風ではないですけども、1 m以上になるとまた浸かるという状況でございます。これらの問題がまだ残っているのかなと思っておりますところでございますし、街路灯の設置事業ということで、周回道路に設置、LED照明にしてはどうかという意見も出ております。それと、ウォーキングステーション整備事業という形で、歩道等を整備した後はウォーキングのメッカということでウォーキングステーションを整備するという意見が出ております。それは、それぞれの箇所に給水ポイントとか、誰もが気軽に行けるようなウォーキングコースをつくったらどうかということでございます。湖周エリアの整備ということで、手法といたしましては、グラウンド・ゴルフ場、ペット風呂、トイレ、駐車場、露天風呂、足湯というようなものをつくってはどうかというご意見でございます。ウォーキング、サイクリングコースの設定ということで、コースの設定として、おすすめコースとか、梨狩りコース、伯耆一ノ宮コース、アスファルトコース、自然道コースなどを設置しながら、来られた方が楽しめるようなコース設定をしたらいいんじゃないかということでございます。桜並木整備事業という形で、藤津から宮内、臨海公園、藤津から宮内につきましては桜が植えてある訳ですけれども、東郷湖周辺を桜並木にしたらどうかということもありますし、それだけではなく、フラワーロードという形で、季節のゾーン、花の種類ゾーン、香りのエリア、果木植樹ということで、場所によって、年間を通して季節で見れる東郷湖周辺を、歩いても花が見れるようなつながりをつくってはどうかということもございます。それから、一株植樹オーナー制度という形で、植樹をしていただいて、その後育てていただけてという形をとってはどうかということでございます。それから、ノルディック、ウォーキング大会という形で、ウォーキング大会の開催をしてはどうかという意見でございます。

続きまして、NO. 22からが観光・物産の活性化、顧客満足度開発チームでございます。旅館魅力アップ事業という形で、先程説明いたしました、食事の選択制度、サービスの選択制度、エステプランの設定、合宿プランの設定というような形で、色々な手法があるということで考えさせていただいています。ウォーキングインストラクター養成事業という形で、宿泊された方が旅館等でインストラクターがいればすぐできるような対応をすればいいのではないかとございまして。それから、足湯の整備という形で、ずっとありますので、すべてを説明すると長くなりますので、割愛させていただきながら説明させていただきたいと思っております。新商品開発事業（食）という形で、珍しいスイーツの開発、素材を活かしたアイスクリームの開発、女性をターゲットにした土産、菓子の開発、これにつきましては、当活性化プロジェクトの中でも商品開発という形で出ています。観光商品の開発も同じでこ

ございます。これらの内容を議論いただいて、このような手法でやったらどうかということ  
でございます。

続きまして、イベント・コンテンツ開発チームに入らせていただきます。マンガサミット  
関連イベントという形で、県で実施されるものですが、例えば湯梨浜につきましては  
羽衣石の天女がでございます。天女によるコスプレとか、天女サミット、天女コンテストとい  
う形のようなものを実施していったらどうかという内容でございます。イベントチームから  
も色々出てきていますので、これらにつきましてはまた見ていただきたいなと思ってい  
るところでございます。

最終的に第2回の会議の中で、内容を見ますと第1点がウオーキング、ノルディックウオ  
ークという形での意見がそれぞれのチームから出ています。これらをいかにつなげていくか  
ということございまして、東郷湖周辺の道路整備、ノルディックウオークの実施という内  
容になっていますし、それを活かしていくためにはどういう手法があるかということが整備  
の内容になってくると思います。それで、第2回会議の時に福井ファシリテーターの方から  
出てきましたのが、湯梨浜におきましては、天女が舞い降りた美しい湖、湖底から湧き出す  
温泉ではないのかということ、天女が惚れたリゾート地、天女を題材に考えたらどうかとい  
う形で、これを中心に進めていくことになるのかなと思っているところでございます。天  
女という形で、例えばシジミの関係で言えば、天女が流した涙ということ積極的にPRし  
たら、湯梨浜は天女の町だという形がとれるんじゃないかというご提案をいただきました。  
それに付随して、先程の周回コースの整備などを進めながら、一つのキャッチコピーとして  
すべてを進めていったら、湯梨浜町の観光振興にもなっていくんじゃないかということござ  
います。とりとめのない説明になったかも分かりませんが、現在がそういう段階ござい  
ます。後1回の全体会議を開きまして、最終的に取りまとめて、こちらの推進会議の方に提  
言させていただきたいと思っているところでございます。以上でございます。

(山田会長)

何かお気づきになったことがありましたらお願いします。

(中本企画課長)

社会資本整備につきましては、町もですけども、県の方にもご協力いただきますし、観  
光・物産につきましては、どうしても旅館関係者の方、主になって協力していただかなくて  
はならないと思っております。例えば、天女を進めていくということになれば、天女の料理  
が出てくるとか、そういうことをこのプロジェクトの中で創作していった場合にも、旅館等  
のご協力もいるでしょうし、シジミの件につきましても、漁協の方と一緒に観光戦略  
というんでしょうか、天女が落とした涙とか、黒いダイヤということもありましたが、そう  
いうものを一緒になって協力していただかなくてはならないということになりますので、こ  
の活性化プロジェクトにもその議論の検討をお願いできたらと思っております。以上ござ  
います。

(山田会長)

よろしいですか。何かお気づきの点がありましたらお願いします。(特になし)

それでは、今の点でも結構ですし、我々の分野のところでも結構ですので、どの点でもお気づきの点が、何か発言しておきたいということがありましたらお願いしたいと思います。

(川崎委員)

先程天女というお話がございました。それはいいと思います。例えば、天女かどうか分かりませんが、一ノ宮のお話もそうですし、宇野海岸の亀石、東郷池のそばの宮戸弁天も女性の神様と関係がありますので、女性に来ていただく材料にはなりそうですから、面白いと思います。

(西田委員)

臨海公園のウォーキングは、年2回やらせていただいています。今年もおかげ様で各回とも200人を越えまして、参加者にもとても好評でして、やっぱり歩道がないところが整備されれば、もう少しスタッフの方も気を使わなくてもいいですし、参加される人も安心して歩くことができますので、そういう整備の方はできれば急いでやっていただきたいと思います。

(山田会長)

概ね歩道ができてきましたけどね。あと少し残っていますね。

(福楽委員)

女性団体の代表で出ております。今年の女性フォーラムは、やっぱり天女を取り上げました。それと、東郷池も取り上げました。天女の話について、土井吉人さんの話を聞きまして、楽しく話してくださいますので、成果があったかなと思います。その後、鶴の池ですので、折鶴を皆が習って折りました。折鶴ですけど、鶴を折ることは皆がご存知ですけども、羽ばたく鶴を折りまして、これも好評でした。それと、天女のお話以外ですけども、またシジミにかえりたいんですけども、なかなかシジミが湯梨浜町民の口に入らないんですよ。どこに売っているかなと思って目を光らせて見るんですけども、あってもすごく高いですし、食べたいかなと思って手に入らないから、やっぱり高いところにみんな行ってしまうのかなと思って、女性の立場としてそのあたりを考えてほしいなと思います。

(宮脇町長)

やっぱり伸ばしていくためには、地元の人がある価値をしっかりと認識しているということも大事な要素ですので、食べる機会は持っていていただいて、本当においしいんだよ、いいんだよということが根っこにないといけないと思っておりまして、色々なイベントでは漁協の方にもお世話になって協力してもらったりしているんですけど。

(福楽委員)

漁協の協力がなくてあれだけの量はできないと思うんですよ。それと、3地区で加工所があるんですけども、そこで色々な農産物の加工品がつくられているんですよ。それもイベントにどんどん出していただけたらいいなと思います。加工所の委員でそれをまとめて、それから、農家の方が集まってつくっておられます。そのことも申し上げておきます。

(尾崎委員)

今回のことと言えば東郷湖なんですけど、湯梨浜町の観光関係業者としては、せっかくだ

い海などもある訳です。温泉にやっぱり滞在してほしいというのが、カヌーの時でも、トライアスロンの時でも、宿泊客が少ないんですよ。できることであれば1日でも2日でも、滞在できる格好にしてほしいという思いが観光業者の方にはありまして、東郷湖というものをテーマにしながらも、例えば潮風の丘から泊の裏を歩くコースとか、そういうものをオプションでいいからつくってもらって、滞在してもらってというようなことも考えてほしいなと思います。できることなら。ですから、東郷湖があくまでもメインであってもいいんですけど、湯梨浜町には他にもたくさんいいところがある訳ですし、そういうものをいかにオプションの中に入れてPRしていくかということも少し考えていただけたらうれしいです。

(宮脇町長)

この未来創造会議の議論の中でも、いくつかのウォーキングを進めていくためのコースづくりみたいなものをきちんとやろうということも中身に入れておりまして、これからそれを進めていくにあたって、構成員の方を選んでウォーキングを進める会みたいなもの、組織的なものをつくらないといけないのかなという気持ちもしております、NPO未来の方々にも入っていただいて、ウォーキングをやっている方にも入っていただいて、そういう企画商品づくりのお手伝いみたいなこともしなくてはいけないのかなと思っております。

(尾崎委員)

以前、会長がおっしゃっていましたが、ノルディックウォーキングにしても、ウォーキングにしても、来る目的が歩くことであって、泊まることとか、食べることが言ってみれば「副」になると確か前におっしゃったことがあるんですけど、観光業者としては、やっぱり「副」でありながらも十に近い待遇に持っていきたいという気持ちは多分にあると思うんですね。だから、そのためには1日でも滞在をしてもらって、隅々までいいところを回って、それがリピーターにつながるという格好になっていけたらいいなという具合に思います。

(山田会長)

いかがでしょうか。

(足立委員)

この会議もそうですし、今回のワークチームの提案等についても感じる訳ですけども、町長が色々おっしゃっていらっしゃいますけれども、まず町民がこういったことに理解しないとなかなか進んでいかないんじゃないかと思っているところです。ですから、町民がそういうことを経験する、体験する、そういう機会をもう少し設ける必要があるんじゃないかなと感じているところです。

(山田会長)

よろしいですか。

(吉井鳥取県中部総合事務所県民局企画調整参事：事務局)

今日の会議の資料で少し気になったのは、東郷湖遊覧がちょっと少ないのがさびしいなという気がしまして、実は私もまだ行ったことがないんですけども、色々新しい事業を検討される中で既存のものも活かすような形で何かできたらなという具合に思いました。個人的にはそういうものがすごく好きなものですから、是非活用できればなと思っています。

(宮脇町長)

この間のゆりはま市の時はどうでしたか。

(山田産業振興課長)

3回就航しましたけれども、ほとんど満席でした。

(宮脇町長)

3回ですか。1回で30人ぐらいですか。もっと乗れますか。(50人ぐらいの声) そうすると、ゆりはま市では150人ぐらいですか。そういうイベント的に実施するのはあるけれども、燕趙園で定期航路的にやると7人しかなかったということですね。

(吉井鳥取県中部総合事務所県民局企画調整参事：事務局)

乗ってみたいという人は結構いると思うんですけども。

(山田会長)

イベントから日常化というね。日常的にあるとまた違うだろうと思います。

(門脇鳥取県衛生環境研究所企画調整室研究員：事務局)

新しい事業の中で、環境についてのテーマが入っていますので、今後、協力できることがあれば協力していきたいなと思っています。

(古田委員)

先程、シジミはどこに行ったのかというお話がありましたけれども、せっかく復活したシジミですし、それから、東郷湖のシジミというのは、皆さん十分ご存知でしょうけど、多分全国的にもトップレベルの高級シジミなんですよね。ですから、高いのは仕方がないんですけども、是非ともそういうものが利用できるように、地元で利用できるように、そういう仕掛けづくりができたらありがたいなと思っています。以前から力を入れてきましたので、地元で皆さんに楽しんでいただけるような仕掛けを考えていただければと思います。

(宮本委員)

よろしいでしょうか。女性に惹かれる観光地を目指すという視点もここ(未来創造会議)の中に入っていたと思うんですけども、やっぱりそうなるかと検討していただくメンバーの選出も非常に重要だろうと思うんです。男性から見た女性が喜ぶ視点というものもあると思うんですけど、女性が喜ぶのは女性でないと分からないというところも大いにありだと思っております。是非女性を多数入れていただいて、知恵をひねるような場をつくっていただくといいなと思います。男女共同参画の視点も必要でございますので、是非そのところはお願いします。

(山田会長)

去年の未来ウオークからですね、ウォーキングというとなんとなく中高年の方が多いいんですよ。もっと若い人に歩いてもらいたいなと。ファッションブルにいこうというのとおしゃれに歩こうというので去年からやり始めたら、ものすごくおしゃれな人が増えたんですね。ちょっと色々な発想があっただけいいのかなという感じがしますね。どうしても我々、ある一定層のあるところということになってしまうので、もちろんそういう方にも大勢来ていただきたいけれども、色々な層に来ていただくというそういう発想があっただけいいのかなと思います。

他にいかがでしょうか。何か事務局からありますか。

(林：事務局)

事務局林でございます。来年度の事業を検討するに当たりまして、只今ウオーキングの話がありましたけれども、改めて各団体や委員の皆さんの方に来年度、今年度も含めてですけれども、活性化プロジェクトに関わるような事業でこういった事業があるよというようなことを整理していただきながら、もう一度事業の拾い上げをしたいと思っています。例えば衛生環境研究所であれば、先程五感チェックのお話がありましたけれども、こういう形で取り組みをしていますというようなことをもう一度、各団体の方からご提案いただけたらと思っています。事務局の方で改めてシートをつくったものをお送りさせていただこうと思いますので、ご協力をお願いいたします。それに合わせまして、この東郷湖活性化プロジェクトは、各団体や各団体の取り組みをいかに連携させながら相乗効果を上げていくかということも大きな目的となりますので、連携に関する提言などもお願いできればと思っています。それから、先程課長の方が東郷湖・未来創造会議のお話をさせていただきましたけれども、本町田後出身の福井昌平さんという方にお世話になって、その指導の下に何度か会議を開催しています。当然ながら実施しようと思えば色々な障壁があると思うんですが、この発想というのは、とりあえず財源のことは考えずに、アイデアですとか、提言を求めるということで皆さんから募ったものです。ですから、単純に言えば、テレビで見たからこういうことをやった方がいいよというようなことが並んでいる状況です。これらの意見をどういう具合に最終的なものとしてまとめていくのかということも第2回会議で行いました。時間軸が大切だということがありますし、実施主体はどこなのか、誰がその受益者なのか、そういうことを整理しながら、仮に5年の時間軸を設定した時に何ができるのか、それぞれの立場で何ができるのかということも第3回の会議で最終的に整理をしていくような格好になります。ですから、先程来ウオーキングの話が出ていましたけれども、ウオーキングをするのであれば、例えば歩道がないから整備してくれと、整備をするのであればそれに伴うソフト事業はどのようにつなぎ合わせていけば全体的な取り組みになるのかということも考えていこうと思っています。また、先程女性であるとか、環境であるとか、そういうお話もありましたけれども、講師の先生のお話では、以前は3Kということがあったかと思うんですが、最近では新3Kと言うそうです。環境、健康、経験が新しい3Kだということで、そういう視点も大切にしながら取り組んでいけたらと思っています。現状としてこのように多くの意見が出たということを皆さんにご認識いただきたいと思うんですが、これを全部実施するという訳にはいきませんので、一つの大きなテーマを掲げながら全体的な取り組みとしてまとめていくという作業になろうかと思っています。12月9日に第3回会議を予定していますので、この活性化プロジェクト推進会議にも情報提供、紹介させていただきたいと思っています。この東郷湖・未来創造会議は、町民の方々から多くの提案やアイデアを集約する機関ということで、活性化プロジェクトとは別の組織ということで立ち上げましたけれども、元々の考え方は東郷湖活性化へ向けた推進母体はあくまでも活性化プロジェクトということで、それぞれ連携を図りながら最終的に効果を上げるように取り組んでいけたらと思っています。

冒頭申し上げましたように、事業の洗い出しをしたいということで皆さんの方をお願いをさせていただくと思いますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

(山田会長)

概ね次回の会議はいつ頃になるんですか。

(林：事務局)

昨年度も3月に開催しようと思っていたんですが、3月では最終的な実績が出ないというお話がありました。ただ、年度で区切るということも想定しなくてはいけないというお話もございましたので、3月中下旬に今年度の第3回会議を開催したいと思っています。

(山田会長)

それから、おっしゃっていた2月頃に何らかのシンポジウムをするということもあるということですね。

(林：事務局)

この活性化プロジェクトもそうなんですが、新しい会議を立ち上げたということもありますので、そちらの進捗状況も踏まえてということになると思います。12月に会議を開催しますが、それまでに日程や内容などを決めていこうと思っています。両方の会議の思いを勘案しながら開催することになるかと思っています。

(山田会長)

今後の日程は、お聞きのようなことだそうです。よろしいでしょうか。何か特にご発言がありますか。

(宮脇町長)

次回というか、来年のことを考えている時に、目標設定ということをしているんですけども、先程話のありました水質の関係について、これは兼ねて私も申し上げたことがあると思うんですけども、4.5mg/lという数字だったら魚が住まない、住むんですか。(住むの声) 目標が高すぎて、かえって魚がたくさん住んだりする環境よりは厳しい数値にそもそもなっているということでしたら、このものを掲げていることよりも、この間の東郷池を考える会の時に衛生環境研究所が話された五感で判断するということは念頭に置いて、それをこの目標の中で言えるようなことも考えてみたら、水深何mが見える池とか、そんなことになるかもしれませんけれども、そういった目標設定にしていけないとなかなかこの4.5mg/lという数字はおそらく困難であるとそういう気もしたりしますので、そのあたりをどういう設定の仕方があるのかを考えてみていただくとありがたいと思っています。

(山田会長)

問題提起ですね。

(長谷岡委員)

今、環境省自体も基準の見直しというのを考えています。CODそのものが本当に基準として適当なのかどうかということを考えて始めていまして、それよりも、例えば先程あった透明度、何mまで見えるのか、それから、酸素の消費量の問題ですね。溶存酸素のことだとか、そういったことの方がいい基準になり得る、きちんと本当は反映しているんだということも

ありますので。ただ、一挙にCODは無視しますということにはならないんですけれども、そういうこともありますので、今の五感チェックの話とか、CODとの関係とか、そういうことも少し分析をしていきたいと思えます。

(山田会長)

他にいかがでしょうか。

それでは、今日はこれで終わります。ありがとうございました。